イネ科通信 26

オヒゲシバ

昨年南港に突然オヒゲシバが現れました。歩道に 2 本だけ生えていましたが、今年(2013)8 月には幅の広い道路を隔てたところで束生しているのが見つかりました。頴果が風に運ばれたのでしょう。また、突然といえばコスズメガヤも多数歩道一面に生えていました。南港は大型車が頻繁に通行するため、その人工的な風によっても運ばれたに違いありません。まさに風媒花といわれる所以だと思います。今までにもヒゲナガスズメノチャヒキが急増したり急減したりするのが観察されています。これも南港に荒れ地が多いのが原因だと考えられます。

オヒゲシバ

荒れ地に帰化するする１年草、稈は高さ 30～70cm、稈は斜めに立ち、節部から発根、基部に多くの葉が集まってつきます。葉鞘の背部は竜骨となり、無毛平滑です。花軸の１側に無柄の小穂が隙間なくつきます。小穂は２小花よりなり、下方の小花のみ結実します。花期は 8～10 月。分布は熱帯から亜熱帯に広く分布しています。この他、この仲間にはシマヒゲシバ、アフリカヒゲシバがあります。

左の写真は道路わきにオヒゲシバが生えているところを写したものです（歩道の上に生えていました)。オヒゲシバの花序をちぎって数日放置しておくと中央の写真の状態になり、さらに放置すると頴果が外れて写真右のようになります。花序の枝に包頴（Ｙ字型になっているところ）が残されています。

花序の枝の根元に落下した小花を写したものが下側の左の写真です。

右側はオヒゲシバのスケッチです。(インターネットから引用しました)

稈が斜めに立ち上がっている状態が分かります。